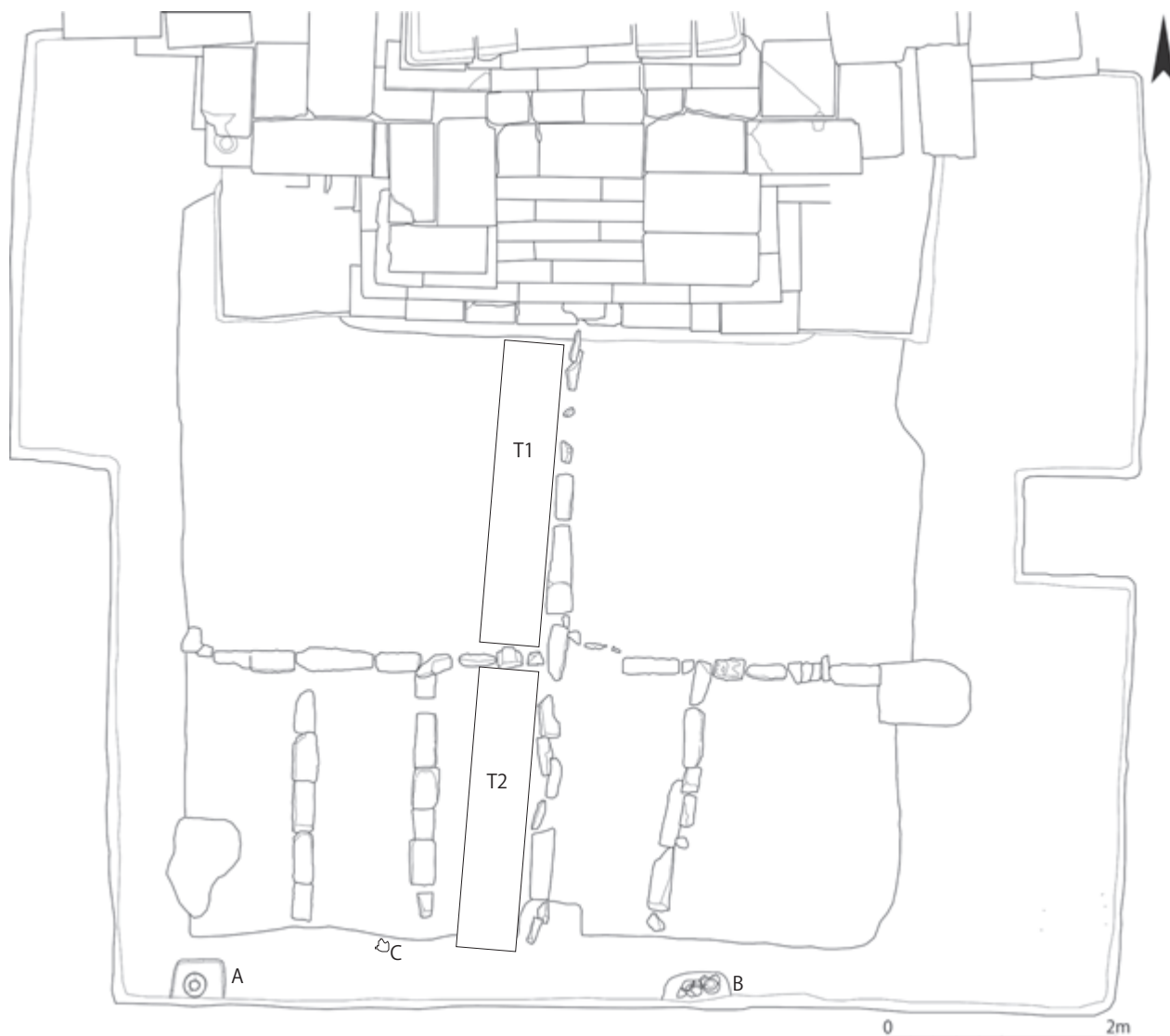


第4章 基壇の地下調査

第1節 掘込地業の調査

基壇内列石

基壇内からは第48図のように平面十字形を基本とする列石が検出された。石列は十字形の石列で掘込地業を4分割し、その西南部に南北方向2列、東南部に南北方向1列の石列を組み合わせる。石列は砂岩とラテライトが混在し、東西石列には老婆の彫像が転用されている。列石上部からN18下面までは約1.45m、最大の列石から掘込地業底まで約0.6mを計る。つまり当該列石は基壇土内中位に浮いた状態で設置されており、その機能が問題となる。掘込地業内の版築のための土留石、掘込地業内の東西南北ラインを示すための基準石列、などいくつかの用途が推定されるが、用途についての結論は、類例の増加を待ちたいと考える。



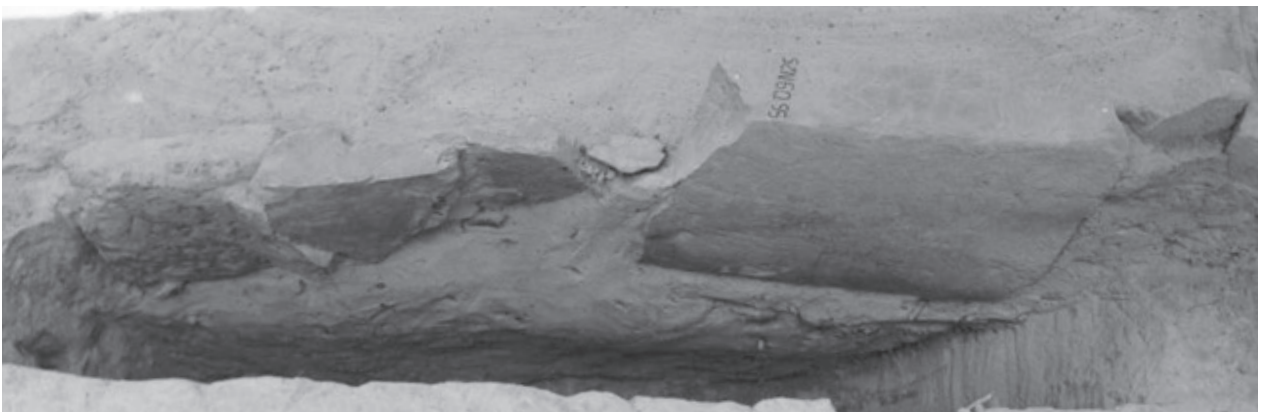
第48図 基壇内石列 平面図

基壇内石列に関しては、基本的に保存しこれ以上の発掘を控えた。そのため、全石列についての詳細な調査は断念したが、唯一、中央の南北石列の西側に断面を見る部分トレンチを入れた。断面図は下図。

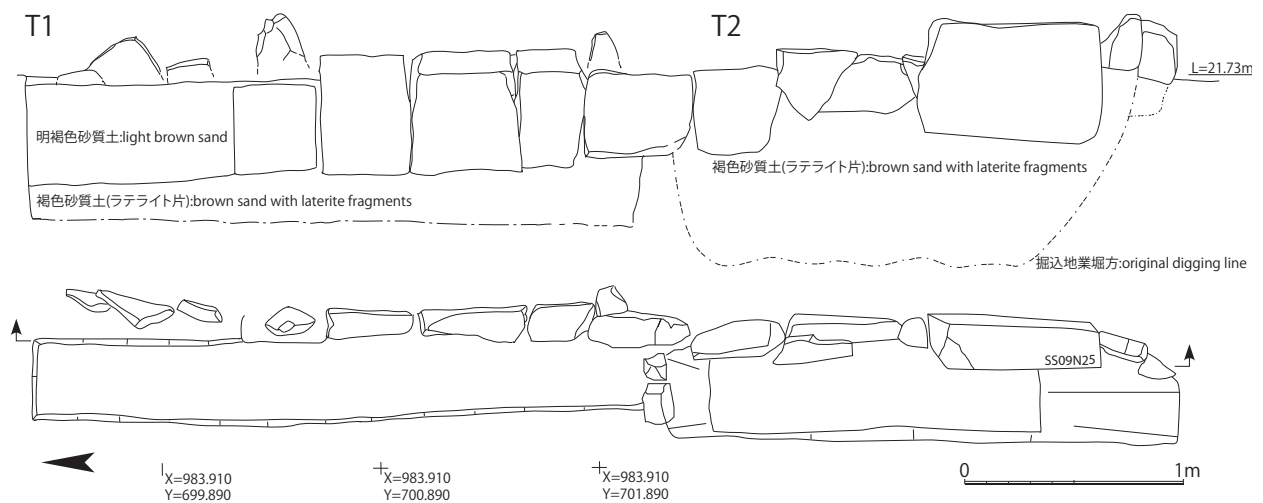
まず北側 5 石と南側 1 石は、比較的大型の扁平な石を縦に使用している。この 6 石については上部がほぼそろっていると見ることができる。しかしそれ以外の小型の石材は大きさや形がまちまちで、高さもそろっていない。またこの断割調査によって、掘込地業の掘り込み線と掘込地業そのこの様子が一部であるが判明した。掘込地業は斜めに掘り下げられており底はかなり凹凸がある。



第 49 図 基壇内石列 北断割（西から）



第 50 図 基壇内石列 南断割（西から）



第 51 図 基壇内石列 南北断割断面図



第 52 図 掘込地業と基壇内石列 俯瞰



第 53 図 掘込地業と基壇内石列（南から）



第 54 図 掘込地業と基壇内石列（東から）



第 55 図 掘込地業と基壇内石列（西から）



第 56 図 掘込地業と基壇内石列（南西から）



第 57 図 掘込地業と基壇内石列（南東から）

第2節 埋納土器

掘込地業の南掘込線の外側から埋納されたとされる土器が3遺構、4個体発見された。

埋納土器 A (第 61,62 図)

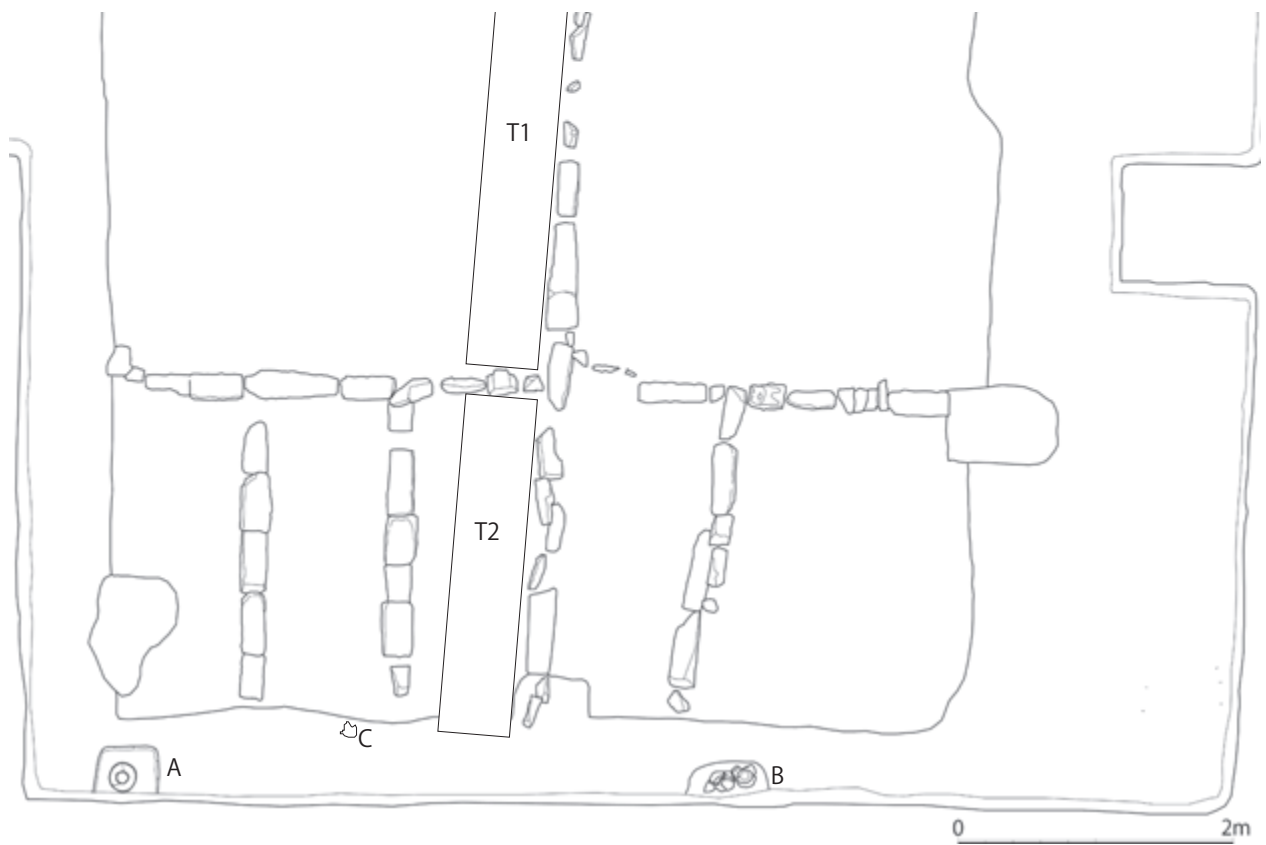
基壇掘込地業の南西隅外側から黒褐釉広口壺が1点出土した。第95図のように南祠堂建立時の地表面と思われる層からの掘り込まれた掘形に正位に据えられていた。口頸部は欠いた状態で埋納されており、意図的に打ち欠いたと考えられる。肩部には黒褐釉が施釉されるが、胴部には施釉されず、肩部からの流下が見られる。蓋は発見されず、木製の蓋があった可能性が考えられる。土器内には土が充満しており、慎重に内部の土を除去したが、底部付近に落ち込んだと思われるラテライト片や砂岩片が数個見られたにとどまる。



第 58 図 掘込地業南西隅

第 59 図 埋納土器 A 出土状況

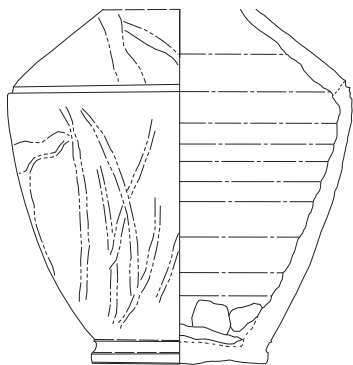




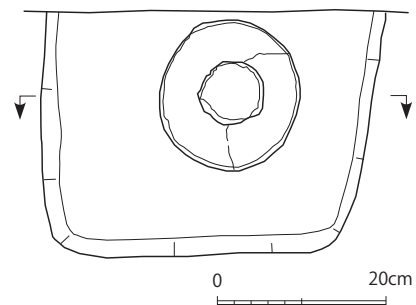
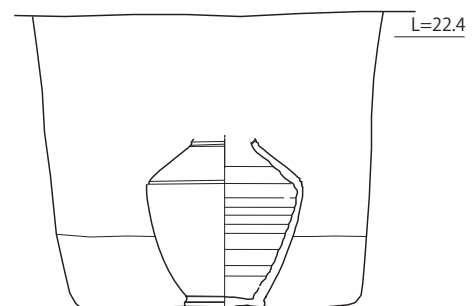
第 60 図 埋納土器出土位置図



第 61 図 埋納土器 A



第 62 図 埋納土器 A



第 63 図 埋納土器 A

埋納土器 B (第 68 図)

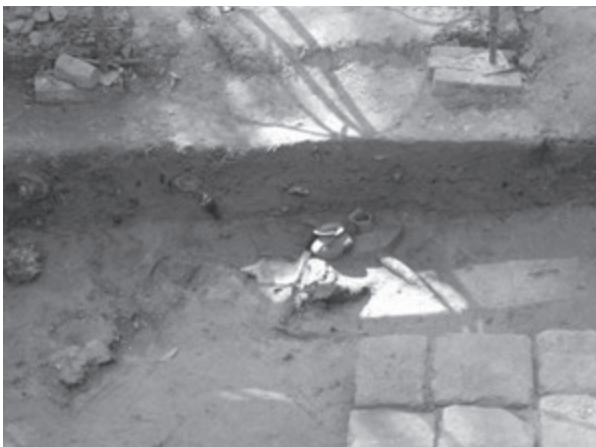
基壇掘込の南側から完形の土師器丸底壺と土師器長頸壺の上半部が出土した。埋納土器 B1 は丸底壺である。口径 13.6cm、高さ 15.4cm、胴部最大径 18.7cm。一般的な丸底甕とやや形状が異なり、最大径以上は外反気味に立ち上がり、底部は浅い丸底となる。頸部には 2 条の突帯が付く。口縁部が波打つ。胎土・焼成ともに良好。埋納土器 B2 は長頸壺である。口径 10.8cm、長さ 9.8cm の頸部から大きく体部が広がり全体の約 1/3 が残存する。肩部には 4 条の突帯が巡り、突帯の間には鋸歯文が印刻される。突帯の下には刺突文で綾杉状の文様が施文され、各綾杉文の間には三角の施文具による三角形の押圧文が施文される。突帯文の部分を除く体部外面には粗い線状の磨きが施される。頸部内面には成形時の絞り目が観察される。胎土・焼成とも良好。

埋納土器 C (第 68 図)

注口土器は頸部径 10.8cm、胴部最大径 24.0cm。肩部に長さ約 4cm の注口が付く。注口取り付け部には水平方向に 2 条の沈線を入れる。まず全体の形を整形し、注口の取り付け箇所には円形の棒状のもので穴を開ける。この棒に粘土を巻き付けて注口を成形している。上記の 2 個体より胎土が精良である。

これらの埋納土器に関しては、いずれも掘込地業の南辺に沿うように配置されているとともに、埋納土器 A では埋納抗が掘込地業と同じ面から掘り込まれている。いずれも掘込地業造成時に埋納された土器と考えられる。こうした土師質土器の時代を考える上で貴重な資料を加えたと言える。

『西トップ遺跡調査修復中間報告 1』 2013 年 3 月



第 64 図 埋納土器 B 出土状況



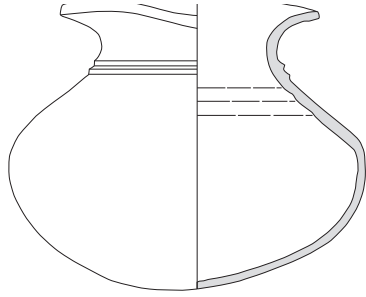
第 65 図 埋納土器 B 出土状態



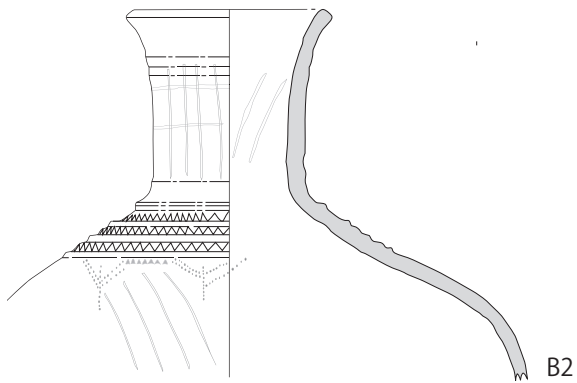
第 66 図 埋納土器 C 出土状況



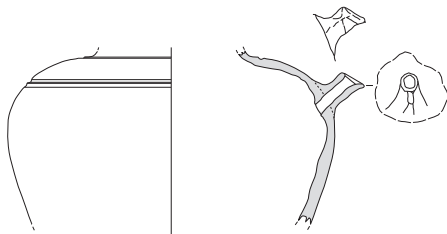
第 67 図 埋納土器 C 出土状況



B1



B2



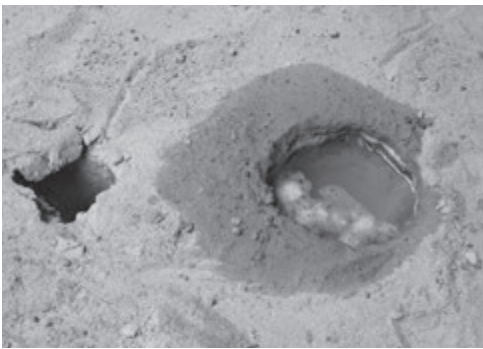
C



第 68 図 埋納土器 B・C 実測図

第3節 基壇内石列面における基壇土の地盤調査

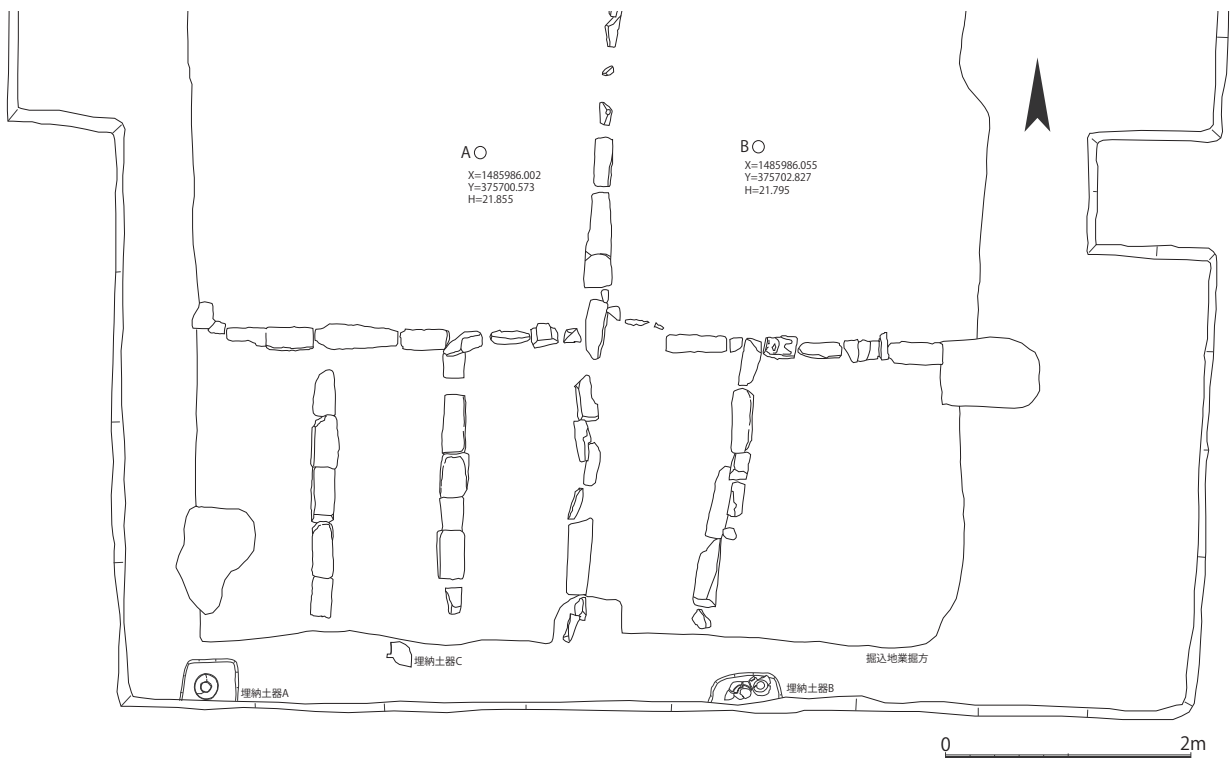
基壇土の再構築に先立って、基壇内石列面での地盤調査を行った。2014年6月10日と11日の両日、基壇内石列面の2カ所において、簡易貫入試験、透水試験、ハンドオーガーによる掘削を行った。結果については別掲の地盤調査報告を参照いただきたい。



第69図（左上） 簡易貫入試験

第70図（右上） ハンドオーガー

第71図（左） 透水試験



第72図 地盤調査位置図